

## マンガ学のすゝめ

日下, みどり  
九州大学比較社会文化研究院 : 教授

<https://hdl.handle.net/2324/16800>

---

出版情報 : 西日本新聞, 2002-01-25. 西日本新聞社  
バージョン :  
権利関係 :

# マンガ学 その6 のすゝめ

日下みどり

『プリジット・ジョンズの日記』はイギリスの中産階級の働く女性の、仕事と恋の悩みを描いた小説

で、映画化もされたベストセラーだ。主役のプリジットは、関心事は上司との恋愛とダイエットといつて普通の女性。親戚のパーティーに行けば「まだ結婚しないの？」と聞かれ「選りない名称だが」の役割を

## 女も出世したい

# 等身大のOLの希望を代弁

好んでいるとチャンス逃すわよ」と嫌味を言われる始末。オフィス・ラブもうまくゆかず、つきあっていた上司の彼は他の女と結婚するらしい。

八方ながりの中、プリジットはどつする？ とい

数では圧倒的に多いOLマンガが担っているのだ。



画期的なOLマンガは深見じゅんの『悪女(わる)』

(一九八九年第一巻発売、九七年全三十七巻完結)だ



「女性も出世する」の言葉が新鮮だった「悪女(わる)」  
◎深見じゅん 講談社「BE・LOVE」

「女にも出世欲がある」といつのもやはり勇気がいる。欲望を口に出すのは不品だからだ。言いにくいことをはっきり言ってくれたことに對して、女たちはまず拍手を送ったのではないだろうか。恋と出世のために難問をゲーム感覚でクリアしてゆく麻理鈴の姿は、胸がすくよつでかっこよかつた。

もっと現実的な働く女性の姿を描いた作品なら、逢坂みえこの古典的名作『9時から時半まで』がある。

落ちこぼれOLの田中麻理鈴が、一目惚れしたT・Oさんと近づいたために出世しようとする張る物語。「女も出世したい」というコンセプトが新鮮だった。女が出世の階段を上がることすると「目に見えないガラスの天井にぶち当たる。昇給や昇進で同期の男性と比べて

今連載中の『ベル・エポック』もお勧めだ。マンガ雑誌編集者になった綺麗麗の、仕事とともに家族や人間関係を大事にする姿を描き、「家族がいるから働けるのよね」と主人公に共感でき



んと「SWETTERリバー」が好調。日本の女性マンガ(少女マンガではない)のレベルの高さを示す作品だ。

今の日本のプリジットたちの姿は、秋月りすの『OL進化論』を読めば見えてくる。総合職はしんどい、寿退社(嫌な言葉だ)を夢見ても恋も手くゆかない。うかつかしている『35

歳で独身で」シリーズ(幾つかテーマがある)のようにかかると難しい時期にさしかかる。仕事か、お見合いか、田舎に帰って両親に会うのも気が重い。悩みながらも今日のランチとおやつが気になる彼女たちは、等身大の日本のOLの姿なの

少し疲れた日本の働く女の味方なのだ。  
(さか・みどり 九州大学大学院教授)